

# アーケードスティック メンテナンス入門

文責：錦糸町民

## 1、はじめに

道具は手の延長。コントローラーの状態は自身の体調のようなものである。格ゲーを嗜む筆者としてはアーケードスティック（以下アケステ）はアキレス腱と言えるくらいに大切なものなので、ここでは特にメンテナンスについて説明したいと思う。新入生諸君、大学に入って何か始めようということで、アケステを購入して格ゲーを始めようではないか。

## 2、アケステの種類について

国内でアケステと言えば、HORI製の「REAL ARCADE PRO」シリーズ（以下RAP）が最も高評価かつポピュラーである。値段は1万円強と学生には少々高いかもしれない。しかし、筆者の経験上、耐久性や性能の関係で、安価なアケステを買うよりも最終的なコストパフォーマンスは良いと思う。という訳で、ここでは筆者の持っているアケステ「REAL ARCADE PRO」「REAL ARCADE PRO. 2」「REAL ARCADE PRO. 2 SA」「REAL ARCADE PRO. 3 SA」「REAL ARCADE PRO. V3-SA」について説明しようと思う。右に行くにつれて新しい物なので、時代と共に、如何にアケステがメンテナンスしやすくなったか考えてみるのも興味深いだろう。なお、SAとはSpecial Additionの事である。

## 3、分解編

メンテナンスのためには、まずアケステを分解する必要がある。当然のことながら、メンテナンスの対象となるレバーやボタンは通常の状態だと何もいじれないからだ。なお、以下の作業は全て自己責任で行なっていただきたい。

### ・全アケステ共通の手順

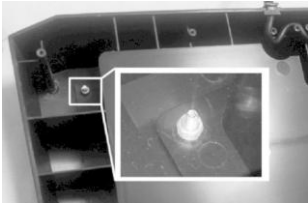
右写真のように、全てのアケステはネジで底の部分が留められている。これを外さない事には何も始まらない。

「REAL ARCADE PRO. V3-SA」以降のアケステについては、この底の部分を外してしまえば、そのままメンテナンスをする事ができるようになっている。おそらく、レバーやボタンを換装したり、この項のようにメンテナンスする人が増えてきたからだろうか。



・「REAL ARCADE PRO」 「REAL ARCADE PRO. 2」 の場合

これらの型は天板と本体がナットで固定されているので、ソケットレンチ等を用いて、このナットを外す。少し緩めた後は指を使って回してやれば労力がかからないで済むだろう。



左の写真を参照。

なお、筆者はソケットレンチを持っていないので、ラジオペンチで代用してナットを外している。



▲ 「REAL ARCADE PRO. V3-SA」  
は底を開けるだけでよい

・「REAL ARCADE PRO. 2 SA」 「REAL ARCADE PRO. 3 SA」

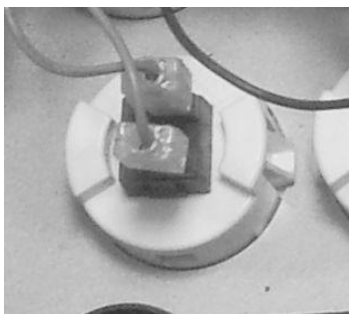
右の写真を見れば分かるように、2SA 以降は天板と本体が六角レンチで固定されるようになった。先述のネットとネジで固定していた時代は非常に分解しにくかったのだが、Special Addition になってその点が上手く改善されていると思う。しかし、結局外さなければ行けないネジの本数は底のネジも含めると、かなり本数が多くなってしまいますので、少々面倒な事には変わりない。後継機では底を外すだけで良くなっているので改善されている。



以上で大体の RAP に対応できるはずである。

#### 4. ボタン編

初期の方の「REAL ARCADE PRO」シリーズは HORI が自社で開発されたボタンを用いていたのだが、現在ではサンワ製のボタンが主流になっている。サンワ製のボタンは秋葉原で電子工作用の部品を売っている店に行けば置いてあるはずだ。値段は 300 円位。基本的にボタンが反応しなくなる等のトラブルが発生した場合、ボタンを交換する事になる（交換しない方法は今回は省略）。



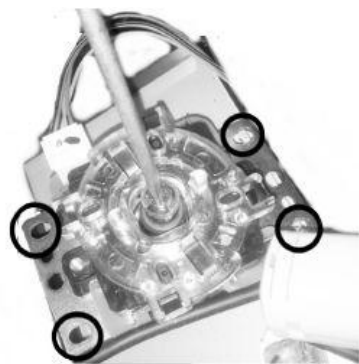
左写真は RAP V3-SA のボタンである。写真にあるコードを取り外した後にボタンを天板の方へ押し込んでやると外れる。コードを外すことで配線し直す事もできる。先の金具をくっつけて反応があれば確実にボタンの問題だと確認できる。どのコードが何のボタンに対応しているか忘れないようにテープ等で「○」だの「□」だの書いておくことを勧める。V3-SA 以前の RAP はコードの金具にマイナスドライバーを挿し込めば外れるはずだが、上手くいかないならラジオペンチ

等の道具で力を入れて引っこ抜いてもいい。ただし壊さないよう注意。

## 5, レバー編

レバーが固くなってきたなあ、と思ったらレバーの軸にシリコングリスを塗る事で対処する。

用意するものは、プラスドライバー・マイナスドライバー・シリコングリス・爪楊枝だ。シリコングリスは好みに応じて何を使ってもいい。参考までに筆者はシリコングリス G501M を使っている。値段はネット通販で買うと 2500 円前後するが、個人ではとても消費しきれない量（上の写真を参照、歯磨き粉のチューブくらいの大きさ）なので複数人で購入してもいいかもしれない。また、アケステに向けたシリコングリスを確実に入手できる店は限られてくるのでネット通販を使う事を勧める。全く関係ないが、シリコングリスでもシリコングリスでも好きな呼び方でどうぞ。なお、爪楊枝は似たような形状のものだったら何を使っても問題はない。



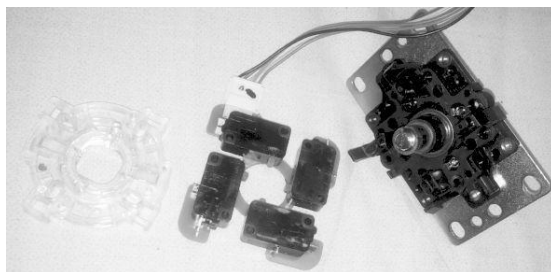
### ・レバーを天板から取り外す

左写真の黒丸の所にネジがあるので、それをプラスドライバーで外す。そして、このままではレバーの玉部分が邪魔になるので、玉も外す。左写真のように、レバー軸の裏をマイナスドライバーで固定して、もう一方の手で玉を回せば外れる。ちなみにネジを先に外してもいいし、玉を先に外してもいい。

ネジと玉を外し終えたら左写真に写っている透明のプラスチックとその下の黒い部分を取り外す。透明のプラスチック部分は爪で引っ掛けられているので、爪部分を押し込んでやれば簡単に取れる。黒い部分に至っては何も固定する物がないので問題ないだろう。この黒い部分はレバーの入力を認識するスイッチ部分なので、向きを覚えておかないと再度組み立てる時に間違っつけると上下左右が目茶苦茶になる可能性があるので注意。このスイッチのバネが劣化するとレバーが度を越して緩くなってしまう。そうなったら新しいレバーを買った方が早い。ゲーセンで、緩くなりすぎて手を触れていないのに傾いているレバーを見たことがある人も多いだろう。その大半はこれが故である。最も、個人で使う分にはそんな事態になる事は無いとと思っている。

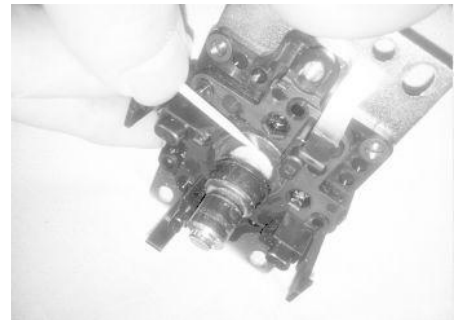
### ・レバーの軸にシリコングリスを塗る

この段階で右の写真のように分解できていれば OK だ。この項目で用いるのは一番右のパーツだけなので、残りのパーツは無くさないような場所に置いておこう。



試しにレバーを回してみてもヌルヌル動いてくれないようなら、シリコングリスを塗る必要があると確認できる。ただし、固いレバーが好きだという人はそのまま放置しておいてもよい。

シリコングリスを塗る具体的な場所は右写真の爪楊枝の先で指している所である。片手を使ってレバーを思いっきり傾けてやれば、あの白い部分が露出されるはずだ。もっと分解して露出される部分を増やせるかもしれないが、これで十分にシリコングリスを塗れる。なお、これは一般的なレバーであるワンワ製のレバーを前提に書かれている。他のレバーの中には専門の工具を購入、もしくは自作しなければならない物もあるので



注意。RAPを使っているのなら、確実にサンワ製のレバーなので気にする必要はないだろう。もし他のレバーに換えたいという場合は、ネットで調べれば簡単に出てくるので自分で調べよう。

シリコングリスを塗りたい部分を露出させたら、後は爪楊枝の先の方にシリコングリスをとって塗る。量は最初は少なめにしておく。塗った後はレバーをクルクル回してレバー軸全体にシリコングリスが馴染むようにする。自分で回しながらレバーの固さを感じ取って、好みの固さになるまで適宜シリコングリスの量を追加していく。カチカチと音がならないレバーという貴重な経験ができるので、思う存分回しておこう。

シリコングリスを塗り終わったらレバーを元の状態に戻す。分解した時と逆の手順で組み立てればよい。再度言うておくが、レバーの向きには細心の注意を払う事。後でレバーの向きがおかしいと気づいたら再び分解するのは非常に面倒なので、組立の最中に適当なゲームで上下の確認をしながら作業をした方がいい。元の状態に戻せたらレバーのメンテナンスは終了。軽くなったレバーで思う存分ゲームを楽しむといいだろう。

## 6、終わりに

筆者が始めてアクセテを買ったのは6年前。当時はアクセテが非常に品薄で、ネットオークションで中古を手に入れていたものだった。今は昔よりもずっと入手しやすくなっているし、パーツ等の周辺機器も充実している。この恵まれた環境を利用しないなんてもったいない。この記事を読んだ新入生がアクセテを購入する程の格ゲー勢になってくれる事を祈っている。

ちなみに、自分のアクセテのメンテナンスをやる人は多いとは言えないので、「メンテナンスが必要なのか、面倒だな」等と、アクセテを買う事自体の敷居を高く思う必要は全然ない。単純に、私がアクセテが好きだからメンテナンスをしているだけだ。シリコングリスが膨大に余っているので、誰かに貸す事も考えている。なにはともあれ、格ゲーを始めたいという人がいるなら、家庭用の環境づくりは簡単なんだと思ってもらえれば幸いだ。

## 7, おまけ (宣伝)

さて、冒頭で「大学に入って何か始めようということで、アケステを購入して格ゲーを始めようではないか。」と書いているが、漠然と「格ゲーを始めよう」としても何をやればいいのかと悩む人が多いだろう。一般人は「STREET FIGHTER とか有名だから、その最新作でもやろうかな」程度にしかなら思いつかないかもしれない。そんな悩み方をしている人には私は「ヴァンパイアセイヴァー」を勧める。(関係ないが、「闘姫伝承」や「トウィンクルクイーン」など、ある意味有名なゲームの名前が出てくる人がいたら褒めてもいい。)

「ヴァンパイアセイヴァー」とは STREET FIGHTER シリーズを擁する格ゲーの大御所カプコンの 2D 格ゲーだ。「ヴァンパイア」というシリーズの実質最新作だが、1997 年稼働とその歴史は長い。古いゲームではあるものの現在でも対戦が盛んで、毎年大きな大会があったり頻りにイベントが開かれたりしている。

ゲームの性質としては「コンボゲーの元祖」と言われたりしている。確かに、昨今のコンボゲーに欠かせないシステム「チェーンコンボ (説明は割愛)」はヴァンパイアシリーズが元祖だ。コンボゲーと言ってしまえば非格ゲー勢から敬遠されてしまうかもしれない。実際、格ゲーが批判される時には「コンボゲー」という言葉はよく使われる。しかし、コンボゲー特有の、コンボ中に相手を浮かせたり、画面の中を走りまわったりは一部のキャラを除いて基本的にない。コンボが簡単なキャラなら人によっては格ゲー初心者でも練習無しで実戦投入できるだろう。個人的には「コンボゲーの元祖だがコンボゲーではない」が最も適した表現だと思っている。

では簡単なゲームなのかと言えば、そういう訳でもない。格ゲーに限らず、非電源ゲームも含めて、全てのゲームは知識が何よりも大事だ。将棋で駒の動かし方を覚えたからといって、すぐ名人になれる訳が無いようなものと思ってい。ゲームをプレイするために必要な最低限の知識は少なくて済むが、本気で強くなりたいのなら細かい知識が必要になってくる。これは非常にバランスがとれていると思う。努力無しで上級者に勝ててしまっても、初心者になるために莫大な努力が必要になってもいけないのだ。それだけに、ゲームに対して色々な向き合い方があって面白い。

家庭用の「ヴァンパイア ダークストーリーコレクション (PS2)」を買えば、ヴァンパイアセイヴァーを含むヴァンパイアシリーズが遊べるし、新品でも 2000 円程度だ。下手な教科書を買うくらいならこちらを買った方が絶対にお得。ちなみに、PS 版のヴァンパイアセイヴァーは PS3 でアーカイブ配信もされていたりする。

最新作ばかりに目が向けられがちではあるが、こういう歴史あるゲームも良いものだ。遊ばれ続けられているのには、それだけの理由がある。興味を持った方がいらっしゃれば、適当なゲー研究会に私のことを聞いてください。このゲームが如何に面白いのか、いくらでも語る事ができるからだ。